

令和3年度 特別の教育課程（書道科）の実施状況等について

牛山小学校

1 本校の教育目標

自らの良さに自信をもち、主体的に粘り強く課題に取り組むとともに、心身ともに健やかな児童を育成する。

2 特別の教育課程の内容

(1) 特別の教育課程の概要

小学校第1～6学年において新教科「書道科」を新設する。第1学年は、国語を30時間、生活科を4時間削減して新教科に充て、第2学年は、国語を30時間、生活科を5時間削減して新教科に充てる。第3～6学年は、国語を30時間、総合的な学習の時間を5時間削減して新教科に充てる。「書道科」において、書を書くという具体的な活動を通し、友達と触れ合ったり、家庭生活での話題をもたらしたり、地域の人々との関わりを生んだりする。そこから、集団の中での自分の役割や行動の仕方を考えさせるとともに、「書のまち」に生きる良さと愛着をもたせる。

また、「書道」という伝統文化や「書のまち」を発信する地域の特性を探究する活動にも取り組むことを通して、表現力の向上と向上心の伸長を図るとともに、日本古来の文化や自分の生活する地域を振り返りながら自己の生き方をも考えさせる。

(2) 特例の適用期間

平成27年4月1日～令和11年3月31日

(3) 実施学年

1年、2年、3年、4年、5年、6年、（特別支援学級 単独でも実施）

(4) 地域の特色を生かした特別の教育課程を編成して教育を実施する必要性

本市は、三蹟のひとり小野道風の生誕の地と言われており、全国的にも数少ない書専門の美術館小野道風記念館を有し、「書のまち春日井」として、書道の普及発展に力を入れている。特に、小野小学校では、愛知県下児童・生徒席上揮毫大会が昭和11年から戦争中も途切れることなく開催され、第1回からの優秀作品を保管するなど、愛知県の書道教育の中心的な役割を果たしてきた。

書道は、「文字を正しく整えて書く」ことにおいて、従前から行われてきた国語科における書写の目的に共通するが、その文化・芸術性及び精神性においては、書写とは一線を引くものである。現在、児童の「表現力の向上」「心の教育の充実」などが重要な教育課題であると認識している。それらを解決するため、前述した地域性や学校の特色、さらには書道の特性を活かした「書道科」を新設し、表現力の向上を目指すとともに、よりよい作品をつくりあげようとする向上心、つくりあげた達成感から得られる自尊感情、相互評価などの他者との関わりから得られる親切心や規範意識等、特に心の充実を図りたいと考える。また、同時に郷土愛についても、書道を通して「書のまち春日井」に根ざして生活している自覚を促し、育てていく。

(5) 学校教育法等に示す学校教育の目標との関係

2に記載する特別の教育課程について、教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に規定する小学校等の教育の目標に関する規定等に照らして適切であることを、春日井市教育委員会において確認済。

3 特別の教育課程の実施状況に関する評価

(1) 評価の観点

- ① 特別の教育課程の編成・実施により、学校の教育目標が十全に達成されているか
- ② 教育課程全体としてバランスのとれた教育活動が実施され、学校教育法に示す学校教育の目標が十全に達成されているか

(2) 自己評価

児童	・ 書の時間にがんばったことは、丁寧に字を書くこと。丁寧に書くと相手に気持ちが伝わりやすいと教えてもらったから。 ・ 点やはらい、はね等は筆の動かし方が大切と学習し筆遣いをがんばった。また、「とめ、はね、はらい」に気を付けることで全体のバランスが良くなることに気づき、大切に取組んだ。 ・ 書の時間に絵手紙をかいたことが楽しかった。文字の形や字を太さを考え、習字でしかできない工夫をしたことが楽しくて心に残った。 ・ お手本の字に近づけるために字のバランスや太さ、書き始めの筆の向きに気を付けて書いた。また体を使い動きを出すことでリズム良く書くことができた。気持ちを表す時には、文字をくずしたり、はらいに勢いをつけたりすることで表現できることを知りおもしろかった。 ・ 「大きな書」は、自由に大きくというテーマだったのでのびのび書くことができて楽しかった。またいつもとちがった雰囲気と恰好がとても新鮮だった。 ・ 字のバランスやとめ、はね、はらいがとても苦手だったけど一画一画に集中して練習するうちに上手になってきたと思う。「大きな書」では今までの練習を出すことができたので成長したなど感じた。
教員	・ 書写ルームは特別教室ということで緊張感がある。また、書写ルームがあることで共同で使わなければならないものを丁寧に使おうとする姿勢が見られた。 ・ 静かに集中して心を落ち着ける時間があっていい。 ・ 「書の時間」が、学習や運動の苦手な児童の活躍の場になったり、自己表現の場になっていることがよい。 ・ 春日井市で取り組んでいる「書の時間」は担任が書の大切さを体感するいい機会になっている。 ・ 「大きな書」は書き方、雰囲気がいつもと違い児童にとって新鮮な時間になった。
保護者	・ 低学年の頃から学校で書道に触れているおかげで、字を丁寧に書くことの楽しさや綺麗に書けた時の嬉しさを感じることができるようになった。 ・ 書写ルームで、専門の先生に教えてもらうことで気持ちも引き締め充実した時間を過ごせているようだ。また、半紙に大きな文字を書く楽しさや字の形や特徴を知ることができ素敵な授業の時間に感謝している。 ・ 一人一人丁寧に声をかけて指導してくださると聞いている。子どもも先生と一緒に書くことが楽しいようだ。書道は習っていないが、楽しい授業が字の上達につながっていると感じている。

(3) 学校関係者評価

- ・ 最近はP Cで文章を書くことが多くなった。春日井市の字を丁寧に綺麗に書くことの大切さを学ぶ「書の時間」の取り組みはとても良いことだと思う。児童の「丁寧に書くと相手に気持ちが伝わりやすい」と感じる気持ち大切にしてほしい。
- ・ 習字を習う子どもが少なくなっているという。学校で楽しく学ぶ機会があることは良い事だと思う。書の時間は心を落ち着かせることができ、心を育てる時間でもある。いろいろな文字に触れたくさんの可能性を伸ばしてほしいと願っている。

(4) 課題

- ・ 書写ルームを使うことで教室が汚れなくなったのは良いが、今度は書写ルームの汚れが目立つようになってきた。床や机の上が汚れたらきれいにするようにしたり、常に整理整頓を心がけたりする指導も合わせて行くとよい。